

釜石発

津波防災の日

11月5日は江戸時代に大きな津波被害をもたらした安政南海地震の発生日にちなんで「津波防災の日」。釜石では地震で大津波警報が発表されたとの想定で、高台への避難訓練などが行われました。釜石市全体では13か所の避難所に市の想定を上回る729人が避難しました。大きな地震が発生したら高台に避難するという津波から命を守る行動を参加者はあらためて意識していました。(11/5 ニュースエコー)



陸前高田発

就任後初の被災地視察



山本順三復興副大臣が就任後初めて県内の沿岸被災地を視察しました。山本副大臣は、釜石、大船渡、陸前高田の3市を回り、復興の状況を確認しました。

震災発生後に一度足を運んだという陸前高田では、市が震災遺構として保存を決めた旧道の駅高田松原や、国などが整備を進める復興祈念公園の予定地などを視察しました。山本副大臣は「被災地の復興に向けて全力を挙げて取り組みたい」と復興を後押しする決意を示しました。(11/6 ニュースエコー)

大船渡発

復興工事現場見学会

復興の現状を住民たちに間近で見てもらおうと、大船渡市で防潮堤工事などの現場見学会が行われました。見学会には住民12人が参加し、震災の津波で被災した大船渡市三陸町越喜来地区の防潮堤や水門の工事の現場を見学しました。参加者たちは各現場で工事の進み具合の説明を受け、復興の最前線の様子を確認していました。この地区の工事の完成は再来年の予定です。

(11/7 ニュース)



宮古発

三陸沿岸道路工事

宮古市田老の市街地を抜ける三陸沿岸道路の工事が本格的にスタートしました。工事が始まったのは田老地区の山側を抜ける2つのトンネルで、津波の浸水域を避けて最短距離で南北に行くことができます。2つのトンネルの間にはインターチェンジが設置される予定で、田老地区の物流や観光に大きな役割を果たすことが期待されています。宮古と田老市街地を結ぶ全線の開通は2020年度を予定しています。(11/10 ニュースエコー)



大槌発

震災FMシンポジウム

震災後に誕生した「災害エフエム」の復興に果たす役割を考えるシンポジウムが大槌町で開かれました。東日本大震災後、県内には沿岸被災地を中心として5つの市と町に新たな災害エフエム局が開局し、地域のための放送を継続しています。シンポジウムでは「地域活性化」や「防災」「コミュニティづくり」といったテーマで各局のパーソナリティが活動を発表しました。会場には自治体の広報担当者も訪れ、メモをとりながら真剣に耳を傾けていました。(11/10 ニュースエコー)



大槌発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は大槌町「ぐるっと大槌」の岩間敬子さんが、11月20日(金)から23日(金)まで盛岡市のNANAKで開催される大槌町の物産展「打ち出の大槌フェア」について伝えてくれました。「三陸海岸ど真ん中の海の幸、山の幸、新たな工芸品。いいものザクザク、うちでのおおつち」と題し、大槌町の商品が勢ぞろい。三陸鉄道名物「三賛六弁当」の数量限定販売や三陸産わかめの詰め放題も行われます。(11/11)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122